

平成28年度 文化スポーツ部 運営目標 達成状況

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
1	日本文化を継承、創造し、世界に発信する「文化首都・京都」の実現に向け、日本の文化行政をリードします。		
達成手段 (数値目標)	①		
	(1)文化庁が移転する「文化首都」にふさわしい文化行政の方向性を示します。 ○ 日本の文化・芸術・学術を代表する京都府文化賞受賞者による「京都文化芸術会議」から提言を受け、新しい文化行政を進めます。 ・ 京都文化芸術会議を開催し、文化庁移転を踏まえた新たな文化行政のあり方を提言 ・ 文化賞受賞者によるフォーラムの開催<1回(28年度新規)> ○ 海外でも活躍されている芸術家、文化人を「京都文化大使」に任命し、京都の文化の魅力を幅広く世界へ発信します。 <「京都文化大使」の任命 5人(28年度新規)> ○ 「京都学・歴史館」において、内外の日本文化研究機関と連携し、京都文化の普遍的な価値を研究、発信します。 ・ 海外の日本文化研究機関との交流連携協定に向けた取組を推進 <交流連携協定締結 3件(28年度新規)> ・ 国際京都学シンポジウムの開催<1回(27年度実績3回)>	△	・京都文化芸術会議から、文化庁移転を契機とした今後の文化政策のあり方について、文化庁長官に対し、8月22日、11月7日の二度にわたり提言を行った。 ・引き続き、更なる提言に向けて議論を進めていくこととしており、文化賞受賞者によるフォーラム等は未開催。 【未達成の要因・理由】 文化賞受賞者によるフォーラムについては、平成29年4月に設置された文化庁「地域文化創生本部」等と連携して、平成29年度に実施することとなったため。
		○	商工労働観光部と連携し、文化観光大使として任命(6人)
		△	・フランス国立高等研究院、セインズベリイ日本藝術研究所、コロンビア大学、台湾大学との交流連携協定締結に向け、協議中(協定締結数 0件) 【未達成の要因・理由】 協定内容の調整に時間を要したため ・3/19 国際京都学シンポジウム「京の武士と町衆ー洛中洛外図の時代ー」開催
		△	・ベンチャー事業による先行事例調査等を実施 【未達成の要因・理由】 アーツカウンシルの創設に向けた構想の策定については、文化庁の移転や府内の既存のアーツカウンシル機能の連携や統合等を踏まえた対応が必要であり、関係団体等との調整に時間を要したため。
		○	・プロジェクト会議1回、プロジェクト事務会議3回開催 ・文化財の修理等の事業を支援 136件 ・企業版ふるさと納税制度を活用した「文化レジリエンス事業」を実施
	○ かけがえのない府民・国民の財産である文化財をしっかりと守り、未来につなぐ取組を進めます。 ・ 知事部局と教育委員会が一体となったプロジェクトチームにより、文化財の保護・活用・継承を図るためのプランを策定 ・ 府指定文化財の拡充、府文化財保護審議会委員等外部識者が文化財保護施策に一層関与する体制づくりなどを推進 (府指定文化財の拡大、未指定文化財の修理等の支援<支援件数 120件(27年度実績 121件)>、国指定・府指定文化財の修理等への支援) ・ 「文化財を守り伝える京都府基金」の事業に賛同している社寺や文化財関連団体等をネットワーク化し、仏教会や神社庁等とともに文化体験プログラム等を充実し、「京都文化力プロジェクト2016ー2020」において、寺院・神社等の文化財を拠点として、京都文化を発信する取組を実施するなど、文化財にふれあう機会を増加		

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
②	(2)世界中の人々と協働し、新たな文化創造の潮流を起こしていきます。 ○ 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の国際的なムーブメントを高めるキックオフ事業であり、「京都文化カプロジェクト2016-2020」の幕開けとなる、「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」の京都開催を政府等と協働して成功させます。(10月) ・オープニング、文化プログラムのキックオフ会議、分科会、京都文化体験プログラム等を実施 ＜参加者数(京都会場):延べ3,000人(28年度新規)＞ ○ 「京都文化カプロジェクト2016-2020」事業を開始します。 ・ オール京都の実行委員会を立ち上げ、今後4年間にわたる具体的なイベントプログラムの実施計画を策定 ・ フォーラムやワークショップを開催し、府民や関係団体等に幅広く参画を呼びかけるとともに、気運を盛り上げ	◎	・文化大臣等、海外からの招待者を含め、京都会場で延べ3,500名の参加を得て開催。 ・文化庁等とともに、オリンピック・パラリンピックに向け、文化による国づくりを推進していく「通称:京都宣言」を発表。京都をアピールした。 ・全体会、分科会等の一般公募も積極的に行い、「京都文化カプロジェクト2016-2020」の幕開けとしてもアピールした。
		◎	・オール京都での実行委員会を設置し、今後4年間にわたる実行委員会事業等を定めた実施計画(総論)を策定。 ・公開ワークショップを府域2回、市内2回開催(うち1回は、大学生からのコンテスト形式で実施)するなど、府民を巻き込み、地域文化について考える機会とした。 ・WEBサイトをリニューアルし、京都文化を五感から紹介する機関誌も創刊。また、推進フォーラムへの参加を幅広く呼びかけるなど開催機運を盛り上げた。
	(3)オール京都の文化創生の基盤づくりを進めます。 ○ 府内各地域で活動する文化芸術団体の活動を支援するとともに、これらの団体が参画する「京都府広域文化芸術ネットワーク」を新たに設置します。＜支援団体数:20団体(28年度新規)＞ ○ 世界博物館会議(ICOM)京都大会2019に向け、府内の博物館・美術館等(京都市以外想定70以上)が参画する、京都府ミュージアムフォーラム(仮称)を設立し、「京都学・歴史館」等との連携による企画展示や研究交流を進めます。	△	・京都文化芸術団体連携強化事業補助金交付 15団体(75%)。 ・3/17 京都府文化芸術団体ネットワーク会議を開催 【未達成の要因・理由】 年間事業計画策定後で、補助対象事業の追加が困難な団体があった
	○ 文化資源を活用した地域の創生を図るため、府内各地域を舞台とした国際的なアーティスト・イン・レジデンス(AIR)芸術祭の順次展開に向けプレ事業を実施します。 ・市町村と連携して、「文化の仕掛人」(アートコーディネーター)を設置(2名)し、アートによる地域資源の掘り起こしや、NPOや府民の文化資源を活用した活動を支援し、芸術祭の土壌づくりを実施 ・有識者会議の開催やアートディレクターの設置を行い、AIR芸術祭の企画・計画に向け、プレ事業を実施 ＜1ヶ所(28年度新規)＞	○	・京都府内の民間を含む博物館・美術館等の情報を収集 ・第1回京都府ミュージアムフォーラムを1月18日に歴史館において開催
		◎	・舞鶴市及び京田辺市の2箇所「文化の仕掛人」を設置し、地域の文化資源を活かし、地域住民が参加できるアートスクールやワークショップを実施。地域の文化活動の活性化を図った。 ・プレ事業「京都Re-Search in 舞鶴」を舞鶴市で実施(8/22~9/4:7名参加、活動報告展:50名来場) ・12/3にアーティスト・イン・レジデンス芸術祭検討委員会、12/4に京都Re-Searchフォーラム(参加人数:100名)を開催。

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
③	○ 文化マーケットの創出をさらに強力に進めます。 ・「京都文化ベンチャーコンペティション」を商工労働観光部、京都商工会議所、文化関係団体等と連携して開催し、文化による起業に向けた取組を積極的に支援 ＜過去受賞者の海外への販路開拓支援として、国際交流基金との連携によるパリ日本文化会館へのカタログ設置等による市場開拓＞ ＜応募者への支援: 1次及び2次審査通過者への起業セミナー、個別相談会等の開催回数18回(27年度実績17回)＞ ＜受賞者への支援: 専門家派遣回数 35回(27年度実績 31回)＞ ＜事業化・販路開拓支援件数 12件(27年度実績 10件)＞		◎ ・募集期間: 6/1～9/15→応募総数: 431件 ・1次、2次、最終審査の開催 ・審査通過者に対するブラッシュアップセミナー等開催(セミナー等の開催 15回(83%)) ・前年度知事賞最優秀賞・優秀賞受賞者等に対する特別支援(イベント開催、展示会出展支援、起業化支援等) ・(前年度受賞者への支援回数 25回(71%)) ・過去受賞者に対する支援(海外販路開拓支援、10周年記念誌発行)(過去受賞者への支援件数 12件(100%))
	・ 京都文化博物館等を会場とした「京都アートフリーマーケット」の開催を通じて、府民が若手芸術家のアート作品に身近に触れる機会を創出するとともに、運営に学生ボランティアを起用することで文化を担う人材を育成 ＜春・秋開催 計300ブース、75,000人(27年度実績 244ブース、73,453人)＞		△ ・2016年秋 開催(開催日: 9/17～9/19) - 来場者数: 25,167人、122ブース ・2017年春開催(開催日: 3/18～3/20) - 来場者数: 35,609人、102ブース (計) 60,776人(81%)、224ブース(75%) 【未達成の要因・理由】 2016年秋の開催分が、悪天候のため出展の取りやめや来場者の減少が生じたため
	・ 若手芸術家の育成を目的とした海外(ドイツ、フランス、香港等)の大型アートフェアへの出展支援の準備		◎ 京都アートラウンジを2回実施 1/27 欧米・中国で活躍するアート専門家と若手美術家が世界のアート市場について情報共有 3/10 京都等の企業経営者と若手美術家が海外での作品の発表・販売展開について意見交換
	○ 「あうる京北(京都府立ゼミナールハウス)」において、森の京都博の一環である「森の芸術祭」として、「森と芸術とひとの共生」をテーマに、生涯学習の成果の発表や森の美術展、けいほくらフト等を開催し(9月～11月)、地域文化の魅力を発信します。 ＜会期中の入場者数: 10,000人(28年度新規)＞		◎ ＜会期中の入場者数: 9,642人(96%)＞ ・木こり技能大会 800名 ・けいほくらフト 5000名 ・三人の写真家展 145名 ・森の芸術祭 570名 ・歴史街道 36名 ・もみじ遊山 1300名 ・昭和の暮らし展 397名 ・切り絵を楽しむ 94名 ・新・北桑展 1300名

運営目標			達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
2	「ほんまもん」の文化芸術を深め、次世代への継承を図ります。			
達成手段 (数値目標)	①	(1)次世代を育み、文化の継承を図ります。 ○ 有識者等による協議会(文化の知恵袋)を設け、教育委員会との連携のもと、優れた人材を学校や地域に派遣し、児童、生徒が優れた文化・芸術を体験・理解するとともに、地域の文化創造活動に参画することができる機会を拡充します。 <次世代が学校又は文化会館等で体験する文化活動事業数 75件(27年度実績 74件)> ○ 次世代の文化を担う高校生の憧れや希望、目標の場となるとともに、全国の高校生の交流の場となる「第5回記念大会 全国高校生伝統文化フェスティバル」及び「第3回全国高校生茶道フェスティバル」を開催します。 <観覧者・参加生徒等数 約3,300人(うち京都府以外からの出場生徒等 590人)(27年度実績 約3,200人(587人))> ・ 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、日本の伝統文化に若い世代が取り組む姿を世界に向けて発信するため、プログラムの多言語化や、留学生等の観覧招待・交流を実施 ・ 60分テレビ番組の全国放映に取り組むなどマスメディアへの働きかけ、全国への発信力を充実 <1件(27年度実績1件:30分番組)>	○	◎ 「文化の知恵袋」委員会の委員意見に基づき、学校へのアーティスト派遣65件(87%)、地域の会館等での体験事業9箇所を実施 ・指導者向け講座(美術・工芸、能、書道、写真、合唱)9講座を実施 ・就学前幼児と保護者向け講座2コース実施
		○ 「古典の日」の精神を京都から普及するため、古典に親しみ、次世代へとつないでいくための取組を推進します。 ・ 古典の日推進委員会等と協働し、源氏物語をテーマとした古典の日や全国朗読コンテスト等を実施 ・ 古典の日推進委員会や関西広域連合と連携し、「古典の日」を普及啓発 ・ 「古典の日フォーラム」をはじめ、「古典の日に関する法律」の精神を踏まえた国主催事業が全国展開されるよう、国に対する要望を実施		◎ 「第5回記念大会全国高校生伝統文化フェスティバル」及び「第3回全国高校生茶道フェスティバル」の開催 観覧者・参加生徒等数:約3,200人 (うち京都府以外からの出場生徒等約560人) 留学生等の観覧者数 約40人 英語版プログラム作成配付 マスメディアへの働きかけ:30分テレビ番組の全国放送1件 <全国高校生伝統文化フェスティバル> 開催日:12月18日(日)/会場:京都コンサートホール <全国高校生茶道フェスティバル> 開催日:12月17日(土)・18日(日) 会場:17日京都府公館他、18日京都コンサートホール他
		○ 京都文化の魅力を発信し、次世代の育成、継承を図るとともに、「ほんまもん」の文化芸術に触れる機会を創出します。 ・ 古典芸能、舞台芸術、音楽などの若手芸術家が参加し、青少年が優れた文化・芸術に触れる機会を創出 <文化施設等における古典芸能、舞台芸術等の実施数 55件(27年度実績 54件)>		◎ 11/1 古典の日フォーラム2016開催 ロームシアター京都 参加1,540人 ・古典の日朗読コンテスト実施 応募者404人、11/26 審査会・表彰式 宇治市文化センター 参加者245人 ・古典の日事業の国主催事業実施について国に要望
			△	・古典芸能普及促進事業補助 29件(能、狂言、邦舞、邦楽、詩吟) ・舞台芸術・次世代推進事業 委託10事業(府民ホールアルティ、文化芸術会館) 補助9事業(広域振興局管内) ・計48事業実施(87%) 【未達成の要因・理由】 南座及び観世会館の改修工事による歌舞伎・能楽関係の事業数減少等のため

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
②	(2)「ほんまもん」の文化芸術を深め、文化の裾野を拡大します。 ○ 累計入場者数50万人を達成した堂本印象美術館について、門から玄関へのアプローチ改良、セルフカフェの設置などのエントランス等の機能向上や更なる発信力強化等を図るリノベーション工事を実施します。 (創立50周年事業)	○	工事設計を完了し、内外装工事に係る工事を発注した。年度内に契約、着工(外構工事は29年度に別途契約予定。いずれの工事も29年度中に完成予定)
	○ 京都を拠点に活躍する若手美術作家による新鋭選抜展を開催し、次世代の芸術家を育成します。(1~2月) ＜新鋭選抜展入場者数 25,000人(27年度実績 24,983人)＞	◎	・京都新鋭選抜展2017開催(1/28~2/12) 入場者数 32,450人(130%)
	○ 京都が誇る伝統文化「いけばな」をアピールする京都新世代いけばな展を開催し、若手華道家の育成及び華道の振興を図ります。(平成28年11月予定) ＜入場者数:6,500人(26年度実績 6,390人)＞	◎	・京都新世代いけばな展2016開催(11/3~11/8) 入場者数6,593人(101%)
	○ 京都彫刻家協会との共催による野外彫刻展を府立植物園で開催し、府民の彫刻への関心を深め、京都の彫刻芸術の振興を図ります。(平成28年10月予定) ＜入場者数:45,000人(27年度実績 44,347人)＞	△	・2016京都野外彫刻展開催(10/1~10/16) 入場者数 36,054人(80%) 【未達成の要因・理由】 台風接近や天候不良による入場者数の減。 なお、27年度は琳派400年記念「バンテオン」と同時開催のため入場者数が飛躍的に増えた。
	○ 府立の文化施設を運営・活用し、優れた文化芸術の創造活動を展開するとともに、文化芸術情報の発信、府民の文化芸術の鑑賞の機会や府民の文化活動の場を提供します。 ＜京都文化博物館の総入館者数 97万人(27年度実績 953,239人)＞ ＜京都府立文化芸術会館の総入場者数 18万人(27年度実績 175,283人)＞ ＜京都府立府民ホールの総入場者数 7万人(27年度実績 67,882人)＞	△	・京都文化博物館 732,327人(75.4%) ・文化芸術会館 173,251人(96.3%) ・府民ホール 67,867人(97.0%) 【未達成の要因・理由】 京都文化博物館については、特別展等の入場者が減少したもの
	○ 伊藤若冲生誕300年を記念した講座等を開催します。 ・ 資料館等での講座＜1回(28年度新規)＞ ・ 植物園での展示会(児童作品展「子どもの目ー若冲と植物」)等の開催 (5月) ＜1回(28年度新規)＞	○	・資料館のホームページ「京の記憶アーカイブ」において、伊藤若冲に関する資料ガイドを掲載 ・児童作品展(「若冲と植物」伊藤若冲生誕300年)を開催(5月)
	○ 府庁旧本館を中心に、府民協働により、近隣の歴史的建造物の公開や個性ある美術工芸展・文化体験などを実施する「府庁界隈まちかどミュージアム」を開催します。 ＜入場者数:18,000人(27年度実績 17,582人)＞	○	・10/22~11/6開催 ・入場者数 13,556人(75%) ・参加施設等:24施設 ・平安女学院大学の協力を得て、モデルコースを作成
	○ 障害者の文化芸術活動を支援します。 ・「きょうと障害者文化芸術機構」の運営に協力・支援するとともに、森の芸術祭において「あうる京北」での障害者芸術展を開催	◎	森の芸術祭開催に併せて、障害者芸術展を開催

運営目標			達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
3	【北山文化環境ゾーン】「京都学・歴彩館」や植物園、府立大学などが一体となった文化・学術・環境の交流発信拠点形成を着実に進め、多様な京都文化の魅力を内外に発信します。			
達成手段 (数値目標)	①	「京都学・歴彩館」のオープンに向けて準備を進めます。 ・ 京都文化の研究・発信や府民の学習の場の提供など、その機能を総合的に発揮できるよう、「京都学・歴彩館」を竣工させます。(7月) ・ 平成28年中の一部オープン(1階 交流フロア(京都学ラウンジ、大ホール、小ホール、展示室等)、平成29年度夏頃までのグランドオープンに向けた準備を進めます。	◎	・ 7月8日竣工 ・ 12月23日の一部オープン、平成29年春のグランドオープンに向け、書架等の備品の設置、移転作業等を実施
	②	「京都学・歴彩館」と周辺施設との連携・交流を図るため、植物園の北泉門(仮称)及び広場・プロムナードの整備を進めます。	◎	・ 3月 北泉門竣工。H29年4月供用開始予定 ・ 広場・プロムナード整備を順次推進(第1工区 発注)
	③	約1万2千種の植物を育成栽培する「府立植物園」の魅力を高め、日本一おもしろい・心安らぐ植物園をコンセプトに、府民のいこいの場、教養の場としてその充実を図ります。 ・ 植物園東側に、北山文化環境ゾーンの回遊性を高める北泉門(仮称)を新たに整備 【再掲】 ・ 日本一の植物園にふさわしい自然と調和し緑を活かした、植物殿堂館機能を含めた正門周辺の整備に向けた準備作業を推進 ・ 「府立陶板名画の庭」と連携したマルシェなどの協働事業を通じた新たなふれあい・交流空間づくりを推進 ・ 関係団体等との連携や民間のアイデア・手法を活かした多彩なイベントの開催 京都さくらよさこい(4月)、花と緑の園芸フェスティバル(5月)、植物園マルシェ(8月)、府民ガーデニングコンテスト(10月)、京都マラソン植物園周遊(2月) 等 ・ 4園館(植物園、動物園、水族館、青少年科学センター)連携による次世代に向けた自然科学事業の展開 ＜植物園入園者数 90万人(27年度実績 88.3万人)＞ ＜陶板名画の庭入園者数 7万人(27年度実績 6.2万人)＞ ・ 海外の植物園との交流連携を通して、世界の先進事例に学び、さらなる魅力づくりを推進 (シンガポール2植物園との連携による展示技術やラン栽培技術の導入)	○ ◎	・ 3月 北泉門竣工。H29年4月供用開始予定 ・ 正門周辺整備について、引き続き検討 ・ 11/5、6 手づくり市(合同実施)実施 ・ 各種イベント実施(京都さくらよさこい(4月)、春の植物園フェスタ(5月)、京の七夕会場として願い事コーナー設置(7月)、クラフトマルシェ(9月)、ガーデニングコンテスト(10月)、京都マラソン植物園周遊(2月)) ・ 4園館を会場にワークショップ等を開催 6回実施(4/17、7/23、8/16～9/19、10/22、11/20、2/5) 【植物園入園者数】 840,176人(93.4%) 【陶板名画の庭入園者数】 67,555人(96.5%) ・ 5/14 ガーデنز・バイ・ザ・ベイ(シンガポール)、10/11 シンガポール植物園と交流連携協定締結

運営目標			達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
	④	「北山文化環境ゾーン交流連携会議(北山ぱーとなーず)」の活動を通して、文化・芸術を身近に感じることのできる新たなエリアデザインを進めます。 ・地元学生によるロゴマークやキャッチコピー、イラストマップなどを活用したエリアブランド戦略の展開 ・SNS等を活用したエリア情報の発信強化 ・「北山月間」(11月)などメンバーの連携協働によるさまざまな交流事業の展開 ・北山の魅力向上・活性化課題に係る調査研究と成果を発信する「北山デザイン会議」の開催(年3回)	◎	・2月 イラストマップ改訂版発行 ・FBによるイベント情報発信(年間) ・北山の魅力発信につながる交流連携事業の実施 「京都きたやま紀行」写真展(4/11～3/31) 「北山ハロウィン」「北山イベントラリー」 (10/29～11/27) 「光の庭」北山アートプロジェクト(11/26～12/25) 「北山こどもモザイク展」歴彩館祝祭 (12/23～1/20) ほか ・先進事例調査研究(山口・8/20) ・北山デザイン会議(6/16、3/23)
	⑤	「北山未来構想委員会(平成28年1月設置)」において、現資料館跡地の活用・整備を含む北山文化環境ゾーンの構想案を策定します。	△	基本構想については検討中(平成29年度策定予定) 【未達成の要因・理由】 以下の内容について検討が必要であったため、時間を要したため ・地域構想(現存施設の課題や一番相応しい中核施設はいかなる施設か など) ・時代的な要請(高度成長期に整備した文化施設の老朽化を踏まえ、文化施設の再構築が必要)

運営目標			達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
4	生涯学習拠点として、府立ゼミナールハウス(あうる京北)の魅力をPRし、利用促進を進めるとともに、ICTを活用した生涯学習環境の充実を図ります。			
達成手段 (数値目標)	①	生涯を通じた、府民の生きがいづくりや学んだ成果を地域社会へ生かすという視点から、生涯学習の新たなあり方の検討や府立ゼミナールハウスや「京都学・歴史館」等の生涯学習拠点としての充実等に向けて、アクションプランを策定します。	◎	生涯学習活動展開・充実プラン策定
	②	生涯学習拠点施設である「あうる京北(京都府立ゼミナールハウス)」において、森の京都博の一環である「森の芸術祭」として、「森と芸術とひとの共生」をテーマに、生涯学習の成果の発表や森の美術展、けいほくクラフト等を開催し、(9月～11月)、地域文化の魅力を発信します。【再掲】 ＜会期中の入場者数：10,000人(28年度新規)＞	◎	＜会期中の入場者数：9,642人(96%)＞ ・木こり技能大会 800名 ・けいほくクラフト 5000名 ・三人の写真家展 145名 ・森の芸術祭 570名 ・歴史街道 36名 ・もみじ遊山 1300名 ・昭和のくらし展 397名 ・切り絵を楽しむ 94名 ・新・北桑展 1300名
	③	「京都学・歴史館」が、新たな府民の生涯学習の場としての役割を担えるよう、シンポジウムや連続講座等の開催、所蔵資料のデジタル発信を行うなど、京都学の蓄積を広く府民に還元する取組を進めるとともに、府民等の研究成果の発表の場を提供します。 ＜シンポジウムの開催 1回(27年度実績 3回)＞ ＜連続講座の開催 2回(28年度新規)＞ ＜共同研究会の研究成果の出版 28年度洛北編＞	◎	・3/19 国際京都学シンポジウム「京の武士と町衆ー洛中洛外図の時代ー」開催 ・京都学講座実施(2回シリーズ 6/18、9/3) ・12月「京都を学ぶ 洛北編」出版 ・「京都を学ぶセミナー」スタート 1/27、2/10、3/10
	④	生涯学習推進ネットワークの協力を得ながら、インターネット放送局の生涯学習講座の内容を充実し、学習意欲を高め、受講者数の増加を図ります。 ＜新講座数：5講座(全115講座)、受講者：6,000件(27年度実績 5,058件)＞	◎	新講座5講座(全115講座)、受講者：5,952件(99%)
5	京都の有する優れた文化価値を内外に力強く発信するため、地元市町村とも連携し、天橋立の世界遺産登録に向けた取組を推進します。			
達成手段 (数値目標)	①	○ 天橋立の世界遺産登録暫定一覧表への登録に向けて、平成26年7月に文化庁へ提出した提案書を補完し、世界文化遺産として国際的に認められる価値(顕著な普遍的価値)を有することを証明するため、天橋立の砂州や松並木の保全への人々の関わり方や、信仰の歴史などについて新たに調査・研究を行います。 ○ これまでの調査研究の成果や地元での活動を取りまとめた報告書を出版し、天橋立の普遍的な価値の理解促進に取り組めます。 ○ 天橋立の価値を広くPRするためのシンポジウムを開催します。＜1回(27年度実績1回)＞	◎	○ 平成28年度調査研究委託完了 ○ 書籍「天橋立学」への招待“海の京都”の歴史と文化 3/12刊行、4月中旬以降、全国書店にて発売 ○ 天橋立世界遺産講演会開催(3/12)

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
6	スポーツ活動の拠点となる施設整備を進め、あらゆる府民がスポーツに親しみ、生きがいを感じ健康づくりに取り組む中で、トップアスリートを生み出していく「スポーツ王国・京都」の実現を図ります。		
達成手段 (数値目標)	(1) スポーツ活動の拠点となる施設の整備を進め、府民の方が気軽にスポーツが出来る環境を整備します。 ○ 地域の振興・活性化とアユモドキ保全活動の好循環を実現する京都スタジアム(仮称)の整備を進めます。 ・スタジアムの実施設計を行い、早期の着工に向けて、事業を進めます。 ・環境保全専門家会議の指導のもと、国と亀岡市等と連携して、アユモドキの生息環境の保全・改善対策等を推進します。 ・「京都スタジアム(仮称)運営経営専門家会議」において、収益の確保や効率的な運営、地域のにぎわいの創出の観点からのスタジアムの運営計画を策定します。	○	・環境保全専門家会議座長提言を受け入れ、都市公園に隣接する「亀岡駅北土地区画整理事業地」に建設位置を変更 ・地下水影響解析 10月契約 ・実施設計等業務 12月契約 ・運営権PFI事業導入可能性調査 3月契約
	○ 丹波自然運動公園において、「京都トレーニングセンター」を28年夏までにオープンするとともに、今年度内に陸上競技場の第2種公認(広域的な競技会が開催可能)を得るため、必要な整備を進めるほか、クロスカントリーコースの整備に着手します。	○	・「京都トレーニングセンター」28年7月 オープン ・陸上競技場 整備完了 29年3月 第2種公認済 ・クロスカントリーコース 実施設計 完了
	○ 市町村が行う広域的・基幹的及び準広域的・準基幹的なスポーツ施設の整備を支援し、府域を見渡したスポーツ施設整備を進めます。 ＜支援先:3市町(京都市(西京極陸上競技場)・福知山市(三段池公園テニスコート)・大山崎町(体育館)＞	◎	・京都市 西京極陸上競技場 諸室・トイレ整備 ・福知山市(三段池公園テニスコート) 砂入り人工芝コート 6面完了 ・大山崎町(体育館)空調等改修 実施設計完了
	(2) 2020年東京オリンピック・パラリンピック等に向け、国際大会や合宿地の誘致を進めるなど、府民のスポーツへの関心・意欲の向上や、競技力の向上、スポーツを通じた地域の交流を図ります。 ○ 島津アリーナ京都における、国際的・全国的なスポーツ大会<6件(27年度実績 5件)>の開催を増やすとともに、中・長期的な視点を持って、国際大会等の継続した開催に向けて誘致活動を展開し、一流のプレーを通じて府民の皆様が夢や希望、感動を与える機会を提供します。 ○ 市町村や関係団体と協力し、ホストタウンの登録を進め、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた合宿地やスポーツを通じた国際交流事業等の誘致、2021年関西ワールドマスターズゲームズの開催誘致に オール京都体制で取り組みます。 ・2020年東京オリンピック・パラリンピックのホストタウン登録に向け、競技団体や府や市町村の友好提携都市等を通じて相手国へ働きかけるとともに、リオデジャネイロ・オリンピック・パラリンピックへ職員を派遣し、現地で具体的に競技団体や参加国に誘致のプロモートを実施します。 ＜ホストタウンの登録市町村数 5市町村(27年度実績 1市町村)＞ ・2021年関西ワールドマスターズゲームズの開催希望市町村での開催実現に向け、組織委員会への働きかけ(開催計画のブラッシュアップ)等を強化します。	◎	国際的・全国的なスポーツ大会の開催 6件(100%) ボクシング日本タイトルマッチ、 バレーボール女子国際大会、 大相撲京都場所、 ボクシングダブル世界タイトルマッチ、 島津全日本室内テニス大会、 バレーボールVリーグファイナル3 ・ホストタウンについては、5市町(京丹後市、大山崎町、舞鶴市、京丹波町、亀岡市)が登録済(100%) ・2021年ワールドマスターズゲームズ関西の競技会場が決定。 府内6市町村(京丹後市、福知山市、京丹波町、南丹市、京田辺市、和東町) 開催に向けた府実行委員会準備委員会を開催

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
	○ ツアー・オブ・ジャパン京都ステージや京都丹波トライアスロン大会を開催し、スポーツを通じた地域の交流を促進します。 <ツアー・オブ・ジャパン京都ステージの観客数 30,000人(28年度新規)> <京都丹波トライアスロン大会:参加選手 300人、観客数 7,000人(27年度実績 参加選手 261人、観客数 6,000人)>	◎	・ツアー・オブ・ジャパン 京都ステージを開催(5月、観客数5万人(167%)) ・京都丹波トライアスロン大会の開催(8月、参加選手数513人(171%)、観客数約1万人(143%))
	○ 「京都トレーニングセンター」におけるジュニアアスリートの医科学的なトレーニング指導による、ジュニアアスリートのサポート体制を構築し、利用促進に努めます。 <京都トレーニングセンターの利用者数 9,000人(28年度新規)>	△	京都トレーニングセンターを5月に竣工し、7月から利用開始(利用者数 2,033人) 【未達成の要因・理由】 競技団体や学校等へのPR等が不足していたため
	○ 障害者スポーツ振興アクションプランに基づき、障害のある方のスポーツへの参加機会の拡大や競技力向上のための環境整備を進めます。(②⑦アクションプラン策定)(健康福祉部共管) ・ サン・アビリティーズ城陽における障害者スポーツの拠点機能を強化(空調設備等の整備)するとともに、パラリンピック競技別ナショナルトレーニングセンターを誘致します。 ・ 車いすランナーの練習場所の候補地を選定します。	◎	・サン・アビリティーズ城陽がパラリンピック競技別ナショナルトレーニングセンターに指定(7月) ・車いすランナーの練習場所の候補地選定(丹波自然運動公園)
	○ オリンピック・パラリンピックや世界選手権等で活躍した京都ゆかりのトップアスリートを府内の学校や府立スポーツ施設等に派遣する「京のスポーツ夢バンク」について積極的にPRするとともに、子どもたちがスポーツを通じて「夢」や「希望」を持てるよう、バンク登録者や体験事業実施数を拡大します。 <バンク登録 120人、事業実施数 30事業(27年度実績 115人、24事業)>	◎	「京のスポーツ夢バンク」の登録者数123人(103%)、実施事業数32事業(107%)
	○ スポーツを通じた健康や生きがいづくりに向けて、府民総体のマスターズ部門の拡充により、高齢者等を含めたスポーツへの参加意欲を促進します。(教育委員会共管) <府民総体のマスターズ部門の開催種目数 19種目(27年度実績 13種目)>	◎	府民総体のマスターズ部門を22種目に拡充(116%)

運営目標			達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
7	私立高校生が安心して修学できるよう修学支援を推進するとともに、私立学校の特色・魅力づくりや経営改革への取組を支援します。			
達成手段 (数値目標)	①	京都府こどもの貧困対策推進計画を踏まえ、私立高校生が経済的事情で学業を断念することがなく、安心して修学できるよう修学支援を推進します。 - 国に対して、政策提言の実施等により、高等学校等就学支援金の拡充や新たな支援制度の創設を積極的に要望するとともに、あんしん修学支援事業の安定的な運営を図るため、制度を再構築 - 非課税世帯の修学支援を充実するため、「奨学のための給付金」の単価を増額 - 京都府高等学校修学金(貸付金)の滞納を減らし、制度を持続可能なものとするため、制度の仕組みなどを示したマニュアルや資料を作成し、各学校と連携して、在学時における生徒指導・制度周知を徹底し、滞納の未然防止を徹底 <私立高校の経済的理由による中退者を無くします。>	○	・28年4月及び6月に文部科学省へ制度拡充や新たな支援制度の創設を要望。あんしん修学支援事業については制度の再構築の検討を継続 ・「奨学のための給付金」の単価を増額(非課税世帯全日制等39,800円→67,200円) ・各学校に対して進級時確認シートの実施を校長会で呼びかけ、滞納額が多い通信制学校に対する進級時確認シート実施の呼びかけを実施
	②	体罰、いじめ、中退、不登校事案の減少・根絶や、子どもたちの自立に向けた取組を推進します。 - 子どもを取り巻く状況を学校全体で情報共有するなど、チームとして組織的に対応 - 京都府いじめ防止基本方針に基づき、「京都府いじめ調査委員会」、「京都府いじめ問題対策連絡会議」において情報共有・意見交換、啓発等を行い、関係機関(教育委員会、いじめ問題対策連絡会議等)が連携して、オール京都体制でのいじめ防止対策を推進 - 京都府私学修学支援相談センターが実施する保護者・生徒への相談や、不登校者に対する学習支援・居場所づくりの取組を支援 - いじめの未然防止、早期発見・解決のため、私立学校(小・中・高)に対するネット監視事業やスクールカウンセラーの設置補助により、学校におけるいじめ防止の取組を支援 - 京都ジョブパークと連携し、経営者団体・経済団体に対して、各企業における高校生の採用要請を行うなど、私立高校生の就業支援や就労後の定着支援を実施	○	・いじめ調査委員会開催 ・京都府いじめ問題対策連絡会議開催 ・ネット監視実施中 ・私学修学支援相談センターへの補助実施 ・新規高等学校卒業予定者を対象とした企業説明会を実施(H28年11月、H29年3月)
	③	京都府公私立高等学校協議会において、少子化の影響を見据えて協議し、これからの京都の教育における公私連携を強化します。 また、今後の子どもの減少期を見据えた、私学の一層の特色づくりや経営改革について研究する機関を、学校・関係団体等と設置するとともに、研究協議の中で経営改革推進支援事業の支援校をケーススタディとして本事業と一体的に取り組むこととします。	○	・京都府公私立高等学校協議会幹事会を6月20日開催 ・北部地域の私立高等学校に関する意見交換会を7月4日開催 ・私学団体とともに設置した「京都私学の将来ビジョン研究協議会」を10月4日、11月28日及び3月21日に開催。京都私学を取り巻く課題等に関する意見交換を行った
	④	私立学校(小・中・高)の耐震改修を促進します。 耐震診断や耐震改修・改築等の国助成制度及び府上乗せ助成の周知、耐震化事業計画・補助金制度等に関する相談を行い、全施設の耐震化を目指して、私立学校(小・中・高)の耐震化を促進 <小・中・高の耐震改修率 90%(27年度実績 86.3%)>	○	・耐震補強工事11棟実施 ((対応済数)235棟/261棟(全棟数)→90.0%) (含む非構造部材のみ耐震3棟実施)

運営目標			達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
8	私立幼稚園において地域の子育て支援と特色ある幼児教育活動、教員の資質・専門性の向上を支援します。			
達成手段 (数値目標)	①	多様なライフスタイルや女性の活躍に対応した、総合的な子育て支援施策を推進します。 ・ 未入園児一時保育事業(地域の子育て家庭の育児や幼児教育の相談、幼稚園と地域の非営利団体が連携した保育・体験学習の実施等)を充実し、地域の子育て力を強化 <全幼稚園148園(27年度実績 130園)> ・ 保護者のニーズに合わせ、正規の時間外に幼児教育の一環として行う預かり保育や、長期休業預かり制度を充実 <全幼稚園148園(27年度実績 143園)>	○	・未入園児一時保育事業 実施園:130園(88%) ・預かり保育 実施園:143園(97%)
	②	私立幼稚園連盟と連携し、教員の資質・専門性の向上、特色ある幼児教育活動を促進します。 ・ キンダーカウンセラー等の専門職員の加盟園への派遣を通じて、幼児教育の質の向上と家庭での子育て支援を推進 <70園(27年度実績 67園)> ・ 園児大会を開催し、園児の交流を広げ、幼児の健やかな成長と私立幼稚園の振興を推進 <府内5地区(27年度実績 5地区)> ・ 教員研修を実施し、教員の資質・専門性を向上 <新採教員研修会・人権教育研修会の実施12回(27年度実績 12回)>	○	・キンダーカウンセラー派遣園:67園(96%) ・園児大会 5地区で開催(100%) ・新採教員研修会・人権教育研修会 12回(100%)
	③	私立幼稚園の耐震改修を促進します。 ・ 耐震診断や耐震改修・改築等の国助成制度及び府上乗せ助成の周知、耐震化事業計画・補助金制度等に関する相談を行い、全施設の耐震化を目指して、私立幼稚園の耐震化を促進 <幼稚園の耐震改修率 70%(27年度実績 65.1%)>	○	・耐震補強工事5棟 ((対応済数)153棟/213棟(全棟数)→71.8%)
	④	「子ども・子育て支援新制度」を踏まえ、各幼稚園ごとの理念に応じた教育環境と保護者の選択権の確保、教育担当部局の関わりの明確化等、地域の課題・実情に応じた制度の運用に向け、「新制度問題等検討会」での検討、市町村・関係団体・関係課との連携、文部科学省への要望等、各幼稚園を支援し、幼児の健全な育成と幼児教育の振興を図ります。	○	・府と市教委、幼稚園連盟、市幼稚園協会が意見交換会を開催(10/4)。 新制度の実施後の幼児教育に係る課題、今後の対応について検討・情報共有

運営目標			達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
9	文化首都・京都が世界に誇る文化財の保護と活用を進め、次世代への継承を図るとともに、社寺などと連携を深め、文化行政を発信します。			
達成手段 (数値目標)	①	かけがえのない府民・国民の財産である文化財をしっかりと守り、未来につなぐ取組を進めます。 ・ 知事部局と教育委員会が一体となったプロジェクトチームにより、文化財の保護・活用・継承を図るためのプランを策定【再掲】 ・ 府指定文化財の拡充、府文化財保護審議会委員等外部識者が文化財保護施策に一層関与する体制づくりなどを推進【再掲】 (府指定文化財の拡大、未指定文化財の修理等の支援<支援件数 120件(27年度実績 121件)>、国指定・府指定文化財の修理等への支援) ・ 「文化財を守り伝える京都府基金」の事業に賛同している社寺や文化財関連団体等をネットワーク化し、仏教会や神社庁等とともに文化体験プログラム等を充実するとともに、「京都文化カプロジェクト2016ー2020」において寺院・神社等の文化財を拠点として、京都文化を発信する取組を実施するなど、文化財にふれあう機会を増加【再掲】 ・ ふるさと納税を積み立てる「文化財を守り伝える京都府基金」について、寄附件数・金額の増加を図るため、仏教会、仏教連合会、神社庁等と連携し、基金を活用した府の取組内容や、支援を受けた社寺等のメッセージ、同意を得た賛助者・団体・企業名を公表するなど、府のホームページ等でPRを進めるとともに、伝統工芸体験の追加などの寄附に対する返礼を充実し、個人や企業へ寄附を積極的に呼びかけ <寄附目標 5,000万円(27年度実績 1,000万円)、協力団体等 200件(27年度実績 182件)> ・ 企業版ふるさと納税の活用など、文化財の保護・継承のための更なる財源確保に向けて検討	○	・ プロジェクト会議1回、プロジェクト事務会議3回開催 ・ 文化財の修理等の事業を支援 136件(113%) ・ 基金への寄附 1,423万円(28%) ・ 協力団体 261団体(131%) ・ 企業版ふるさと納税制度を活用した「文化レジリエンス事業」を実施
	②	・ 宗教法人が不活動状態に至らないために法人毎の対策を検討し、指導・相談を実施 <15法人(27年度実績 15法人)> ・ 不活動状態にある宗教法人の整理を実施	○	・ 指導・相談 19法人(127%)
10	「総合教育会議」により、知事部局と教育委員会が教育等の課題を共有し、その解決に向けて連携して取り組みます。			
達成手段 (数値目標)	①	「京都府の教育等の振興に関する大綱」に基づき、貧困や薬物乱用等の様々な問題や、文化の継承・活用やスポーツ、生涯学習の環境づくりなどに対して、知事と教育委員会が基本的な認識を共有し、連携を密にして、一体となり、施策を推進するとともに、家庭、地域、市町村、学校、各種団体、専門機関等が連携してオール京都体制で、子どもたちの教育環境の整備に取り組みます。	○	・ 会議 計2回開催 ・ 「京都府の教育等の振興に関する大綱」の実現に向けて意見交換

運営目標			達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
11	京都の成長戦略の核となる大学の資産を活かし、大学・学生の力を活かした地域の活性化など、ともに成長・発展する「京都のまごどキャンパス化」に取り組みます。			
達成手段 (数値目標)	①	「1まち1キャンパス事業」を通じ、大学のキャンパスだけでなく、地域を学びの場とする大学の活動を推進します。 - 大学と市町村との連携事業数<15プログラム(28年度新規)> - 市町村大学生等受入施設整備数<15力所(28年度新規)>	△	・連携事業数 15プログラム(100%) ・施設整備 2力所(13%) 【未達成の要因・理由】 受入施設については、既存の施設で対応する 경우가多く、施設整備の希望が少なかったため
	②	「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+事業)」及び大学間連携共同教育推進事業への参画等を通じ、地域で活躍できる人材の育成を充実します。 - COC+事業を通じて京都について学ぶ学生数 <延べ5,000人以上(27年度実績 延べ4,937人)> - 地域で活躍できる人材育成のための資格制度(地域公共政策士、グローバルプロジェクトマネージャー(GPM))の充実 <資格取得者数 地域公共政策士 120人/GPM 30人(28年度新規) (②7末現在の資格取得者数 地域公共政策士(②1~)38人 GPM(②7~)0人)> - 大学との連携協定の推進<協定締結 新規2大学(累計8大学)(27年度実績 2大学(累計 6大学)>	△	・京都について学ぶ学生数 6,039人(121%) ・地域公共政策士 106人(88%) ・GPM 10人(33%)(プログラム修了者100人) ・包括協定 0(累計6大学) 【未達成の要因・理由】 GPMについては、プログラムの修了者は増加したが、資格取得に至る者が少なかったため。 大学との連携協定については、協定に向けた協議に時間を要したため
	③	「大学のまち・京都」の強みを活かし、大学の「知」を結集し、文化・教育・研究活動を活発化するためのプラットフォームの設置について検討します。	△	府HPIにて、府内各大学の研究者情報検索リンク集を掲載し、研究者情報を集約 【未達成の要因・理由】 プラットフォームの設置については、大学等との協議に時間を要したため
	④	ホームページ等を通じた情報発信等により、キャリアアップや社会貢献、学び直し等様々な目的で大学に再入学する社会人の増加を目指します。 ・社会人入学者の増加<1,000人(27年度実績 930人)>	○	社会人入学者数 950人(95%)
	⑤	京都学生祭典を通じ、「大学のまち・京都」の魅力を広く発信します。 - 参加学生数の増加<1,600人(27年度実績1,544人)> - 地域との連携、交流活動の充実<交流活動回数 350回(27年度実績 327回)> (第40回全国育樹祭プレイベント、中丹広域振興局での小中高校生と大学生のコラボ企画への参加) - 芸術系大学と連動した広報媒体の製作や音楽パフォーマンス等の実施	○	・参加学生数 1,424人(89%) ・交流活動回数 456回(130%) ・京都学生祭典において音楽パフォーマンス、芸術作品制作、ファッションショー等を芸術系大学の学生と連携し実施

運営目標			達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
12	府立医科大学及び府立大学における教育・研究・医療の充実や地域貢献の推進を図るため、京都府公立大学法人第二期中期目標に基づき、施設整備や機能強化を図ります。			
達成手段 (数値目標)	①	総合的に物事を判断できる能力と豊かな人間性を有する学生を育成するため、教養教育共同化施設を拠点に平成26年度から全国初の取組として開始した3大学(府立医科大学、府立大学、京都工芸繊維大学)による教養教育共同化を推進します。 ・教養教育科目数(共同化前後で2~4.9倍増加)と共同化科目履修登録者数(平成27年度6,637人)の拡大 ・三大学学生の参加による京都の歴史的・地理的特性を活かした宿泊型研修(1回)を実施 ・これまでの成果を踏まえ、3大学において、「現代の大学教育において求められる教養教育」に関する提言を取りまとめるとともに、それらに関するフォーラムを実施(教養教育「京都モデル」の発信)	◎	・教養教育共同化科目数について共同化前に比べ2.1~4.9倍に増加 ・平成28年度の共同化科目履修登録者数は、7,257人(平成27年度比9.3%増)に拡大 ・過疎化の進んだ地域を三大学の学生が訪れて住民とふれあい、議論を重ね、地域課題の解決策を提言する宿泊型研修を平成28年9月に綾部市で実施 ・これまでの成果を発信するため、平成28年11月に京都三大学教養教育共同化フォーラム「今、求められる教養教育-京都からの発信-」を開催
	②	府立医科大学附属病院において、「世界トップレベルの医学を府民の医療へ」をモットーに、機能強化ビジョンを順次進め、陽子線等による最先端のがん治療や安心して産み育てられる環境づくりなど、医療提供体制の強化を図ります。 ・府内初の陽子線治療施設となる永守記念最先端がん治療研究センターの平成29年度完成・早期運用に向けて、人材育成・確保や治療費助成の制度の検討 ・地域で安心して産み育てることができる周産期医療提供体制確保に向けて、晩婚化等に伴うハイリスク出産に対応した「母子・胎児集中治療室(MFICU)」の実施設計(平成29年度施設整備、平成30年度供用開始目標) ・附属病院の施設の中で緊急に整備が必要な手術室、集中治療室等について、早期に具体的な整備を推進	○	・最先端がん治療研究センターの人材育成・確保のため、他府県の陽子線治療施設等へスタッフを派遣するとともに、治療費助成の制度を検討 ・母子・胎児集中治療室(MFICU)を整備する平成29年度予算を編成 ・手術待ち状態の改善を図り、府民に高度医療を提供するため、手術室を増加する平成29年度予算を編成
	③	府立医科大学附属北部医療センターが、北部地域における中核病院や医学教育・臨床研究の拠点としての役割を果たすため、医療提供体制の強化を図ります。 ・「北京都安心医療拠点整備検討会」の提言を踏まえた、計画的な整備を進めることとし、がん診療の早期強化を図るため、「がん診療棟(仮称)」について、整備を検討 ・医師確保対策(医学生(地域枠)の受入環境の整備、研究・指導・教育環境の整備、住環境や待遇面の充実など)の推進	○	・「北京都安心医療拠点整備検討会」の提言を踏まえ、平成28年5月に丹後地域の市町村長や病院長等による「北部地域医療体制推進会議」を開催 ・丹後医療圏で初となるがん診断からがん治療までを一体的に実施する「がん診療棟」の新築整備に向けた実施設計を行う平成29年度予算を決定 ・臨床実習の拡大(72週化)に向けて、医学生の受け入れのため、研修室の改修工事を実施
	④	府立大学の下鴨・精華両キャンパスのあり方について、高度で質の高い教育・研究環境を確保し、地域に貢献する大学としてその役割を果たしていくため、27年度に引き続き「府立大学基本構想委員会」及び外部有識者を含む「府立大学基本構想委員会専門家会議」において、具体的な整備計画を策定します。	○	基本構想委員会(平成28年12月、平成29年3月)及び専門家会議(平成28年7月、平成29年2月)を開催し、今後のキャンパス再編等について検討し、今後の整備の方向性を取りまとめた

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
⑤	民間との連携による和食文化の保護・継承を図るため、府立大学における平成31年4月を目指した和食文化学科(仮称)開設準備及び学問体系の構築に係る調査・研究等に対して支援します。 ・学問体系の構築等に係る調査・研究<平成27年度に引き続き専門家会議を開催(4回)(27年度実績 3回)> ・学科開設に向けた、学部の枠組みを超えた学際的な教育プログラムの提供 (「和食の文化と科学」プログラムの継続実施、新たに「食文化原論」、「和食文化論」等の科目を開講) ・高等教育機関の設置認可申請の準備(設置計画の検討、文部科学省への事前協議) ・「和食文化の大学コンソーシアム(仮称)」設立に向けた、関連大学・研究者・民間企業等との準備協議	○	・学問体系の構築に向けた本格的研究を実施(人類学、歴史学、日本食文化史学の各領域) (専門家会議の開催0回) 【未達成の要因・理由】 専門家会議に代え専門家会議全委員と個別に教育課程等に関する調整を行ったため ・「和食の文化と科学プログラム」開講科目(全29科目)を文化系に重点化して実施。 ・高等教育機関の設置認可申請に向けて設置計画の検討や文部科学省(2回)、設置審現任委員(3回)、文化庁(1回)への相談を行った。 ・平成29年2/28、3/1に和食文化の大学コンソーシアム準備会発足記念キックオフ・シンポジウムを開催(来場者310人)
	府内各地域の様々な課題の解決に向けて、市町村、住民団体等と共同して調査・研究を行う「地域貢献型特別研究(府大ACTR)」について、より地域のニーズに即したものとなるよう、研究テーマの選定方法等を見直し、調査研究活動を強化するとともに、その成果をホームページや「京都学・歴彩館」などを会場とした成果発表会により広く情報発信します。<調査研究活動件数 20件>	◎	「地域貢献型特別研究(府大ACTR)」について、研究テーマの選定方法を見直し23件(115%)の地域課題解決に向けて研究を実施するとともに、平成29年2月に宮津で、3月に京都学・歴彩館において成果発表会を行い、広く情報発信

目標達成状況(達成区分)	件数	割合
目標達成「◎」(達成手段のすべてが◎)	2	17%
概ね達成「○」(達成手段の◎○が2/3以上)	8	67%
未達成「△」(達成手段の◎○が2/3未満)	2	17%
計(運営目標数)	12	

[達成手段(数値目標)の達成区分]
「◎」…目標達成・上回って進捗(達成率100%以上)
「○」…概ね達成(達成率90%~100%未満)
「△」…未達成(達成率90%未満)